

1 総合教育会議における協議事項に関する取組状況及び成果等について

資料1

(1) 令和2年度第2回総合教育会議 (R2.10.22開催)に関する取組状況等

No.	協議事項における意見等(要約)	主な取組状況
1	<p>模擬選挙、模擬投票、市議会の見学、いわゆる議会制民主主義というものがこういうものなのだという体験的な学習も重要と思っている。議会事務局や選挙管理委員会など、いろいろな方と連携しながら、より充実した主権者教育をしていただきたい。</p>	<p>【指導1課】 さいたま市の主権者教育には、従来より「トライする」「話し合う」「本物に触れる」「18歳を見通す」の4つのポイントがある。「トライする」「本物に触れる」は、市議会議場等の見学や市議会の見学・傍聴など、体験的な活動の充実を図り、実社会との関わりを重視することである。 令和2年度は、議会局と連携し、小学校では議場見学、中学校・高等学校では「さいたま市議会インターネット議会中継」を活用した議会傍聴を実施した。また、税務署や選挙管理委員会とも連携し、租税教室等を実施した。 令和3年度も議会局と連携し、小学校では議場、中学校・高等学校では市議会に実際に足を運んで見学する「リアル」な市議会見学・傍聴を実施する。また、「さいたま市議会インターネット議会中継」を活用した「デジタル」な市議会傍聴を実施する。 さらに、今年度も税務署や選挙管理委員会と連携し、租税教室や模擬投票等の実施を計画しております。令和3年5月22日はさいたま市立浦和高等学校で、さいたま市長選挙を題材とした模擬選挙を実施した。 高等学校では、令和4年度から選挙権年齢及び青年年齢の引下げなどを背景に、新科目「公共」が年次進行で始まる。18歳というゴールを見通して、今後も12年間の学びの連続性を意識した主権者教育を推進していく。</p> <p>【選挙課】 令和2年度は小学校6校で出前講座による模擬投票を実施した。そのうち、2件については指導1課と連携し浦和税務署が実施している租税教室との同時開催を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座の実施数は一昨年度(12校)と比較して減少した。 一方で、さいたま市選挙管理委員会が各校へ赴くことなく出前講座と同様の模擬投票が体験できるよう、模擬投票DVDを作成し、令和3年3月にさいたま市内の全市立小中学校及び特別支援学校へ配布した。</p>
2	<p>after・コロナにおいて、従来の理数教育に加え、今後は芸術や文化などリベラルアーツ教育に注力し、ものごとを多面的に捉える力を醸成する教育に市を挙げて取り組むことが重要である。</p> <p>※リベラルアーツ教育は複数の意見あり</p>	<p>【指導1課】 科学技術人材の育成を目的とした教育である「STEM教育」に、リベラルアーツとしてのArtや、さいたま市らしいSportsを加えた「さいたまSTEAMS教育」を推進することで、科学・技術分野の発展や革新を支え、新たな価値を創造し、未来社会をリードする人材を育成し、科学・技術分野の進展により大きく変化する現代社会において、自己実現できる市民を育成する。 「さいたまSTEAMS教育」のArt分野の研究指定校に小・中学校1校ずつを委嘱し、芸術的な感性を生かし、心豊かな生活や社会の価値を創り出す創造性を育む研究を進めていく。</p> <p>【文化振興課】 令和2年度は、小・中・特別支援学校にプロの演奏者を派遣する「プライマリーコンサート」を15校で、また、さいたま市文化振興事業団による、小学校を対象とした「アウトリーチコンサート」を9校で実施したほか、音楽活動を行う小・中学生が成果を披露し合う「ジュニアソロコンテスト」を開催した(新型コロナウイルス感染症の影響により、音源審査にて実施)。 そのほか、盆栽に関する講義と盆栽づくりを体験する「小学校出張盆栽授業」や、大宮盆栽美術館及び岩槻人形博物館において校外学習の受入れを行った。 子どもたちが質の高い文化芸術に触れる機会や、子どもたちの文化芸術活動の成果を発表する機会、本市の文化資源を活かした体験学習等の充実を図るため、今後も学校や関係団体等と連携しながら、これらの事業を継続していきたいと考えている。</p>
3	<p>色々とぶつかったり失敗したりという経験を合わせながら子どもたちを育てていくということは重要な要素であるため、GIGAスクールにより大きく転換する時期にさいたま市らしいリアルとデジタルのベストミックスの教育の仕組みと、あり方を作り上げていただきたい。</p>	<p>【教育研究所】 これまでの対面の授業は大切にしながらも、「さいたま市GIGAスクール構想」の本格実施により、全教職員が各々のICTスキルやキャリアに応じた研修を令和2年度から継続して受講する仕組みを構築している。また、各校2～5名程度、全校で700人超のエバンジェリスト(※)を育成し、管理職のリーダーシップの下、ICTを活用した学びの改革に取り組んでいる。さらに、「さいたま市GIGAスクール」活用応援ページとして、市内の教職員が授業等の実践事例を情報共有することのできるプラットフォームを構築し、各校が自走していけるよう後押ししております。上記の取り組みを通して、リアルとデジタルのベストミックスの教育の仕組みと、あり方を作り上げていく。</p> <p>(※)エバンジェリスト:「さいたま市GIGAスクール構想」について、積極的に学び、自校に広め、伝える教員。各学校独自の「〇〇学校GIGAスクール構想」を構築する推進役としての教員。</p>
4	<p>コロナの時代の教育をどうするかということでは、現場や親、子どもに問いかけ、学校や家庭からも色々な経験や知恵を提供してもらい、一緒にさいたま市教育の道を考えていくという、開かれた姿勢を今後打ち出していくことで、コミュニティスクールという制度がコロナの時代にうってつけのものとして、本格的に実効性を発揮できるのではないかと考えている。</p>	<p>【生涯学習振興課】 コロナ禍により、学校教育、家庭教育及び社会教育それぞれの役割と責任並びに相互協力の重要性が顕在化した。このような状況を踏まえ、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し連携・協働するコミュニティ・スクールを推進することで、地域全体で子どもたちの成長を支えていく環境を整えていく。 具体的には、令和4年度から全ての市立学校におけるコミュニティ・スクールの実効性を高めるため、研修や訪問指導等を通じて各学校への支援体制を強化していく。また、「さいたま市コミュニティ・スクール推進協議会」において、これまでの成果や課題等を踏まえ、本市コミュニティ・スクールのあるべき姿を見出し、地域とともにある学校づくりを一層進めていく。</p>

(2) 総合教育会議 (R1以前)における協議事項に関する取組状況等

No.	協議事項	主な取組状況・成果等
1	<p>○平成27年度 第3回 放課後児童対策の推進</p> <p>【協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 待機児童の解消に向けた放課後児童クラブの整備推進 放課後児童クラブの学校内への整備についての連携 	<p>【青少年育成課】</p> <p>年々増加する放課後児童クラブの需要に対応するため、待機児童数の多い学区や入室児童数の定員超過が著しい学区への放課後児童クラブの整備を優先的に行っているところ。また、余裕教室等の学校内への整備についても積極的に取り組んでおり、平成30年3月には、教育委員会との間で、「<u>学校施設を活用した放課後児童クラブ施設の整備に関する協定書</u>」を締結し、学校施設を放課後児童クラブへ転用する際の基本的な合意事項を整理した。整備実績としては、平成29年度から令和2年度までの間で、学校内において11施設の整備を行った。</p>
2	<p>○平成28年度 第2回 子どもの居場所づくり事業（多世代交流会食）</p> <p>【協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多世代交流会食の実施場所について、公民館等の教育委員会所管施設の借用について協力・連携 	<p>【子育て支援政策課】</p> <p>多世代交流会食の実施希望者から公民館等で実施したいとの意向があった場合に、該当公民館及び拠点公民館と子育て支援政策課で打ち合わせを行い、多世代交流会食の事業内容や施設使用に関するルールなど調整のうえ、<u>公民館等を借用して事業を実施している。令和2年度には、市内14か所で実施した多世代交流会食事業のうち、6か所で公民館を借用して実施した。</u>今後も、多世代交流会食の実施か所数を増やしていく中で、実施希望者から公民館等で実施したいとの意向があった場合には、教育委員会と連携を図りながら事業を推進していく。</p>
3	<p>○平成30年度 第2回 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたオリ・パラ教育の推進</p> <p>【協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会に向けて、ボランティアマインドの育成 「子ども向けボランティア体験プログラム」への参画についての協力 	<p>【オリ・パラ部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市も委員として加盟する「2020オリンピック・パラリンピックノラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会」では、大会期間中に競技会場周辺で子どもたちと観戦客が交流する「子ども向けボランティア体験プログラム」の実施を検討していたが、新型コロナウイルスの影響により実施を見送った。 代替プランとして、子どもたちから県内開催競技をモチーフとした<u>絵画や工作物などの写真を募集し、デジタルサイネージにより競技会場の所在自治体庁舎等で展示している。</u> 本件の実施にあたっては、小中学校校長会で説明後、各校へチラシを配布させていただき、ご応募にご協力をいただいた。
4	<p>○平成30年度 第2回 市立高等学校「特色ある学校づくり」計画推進 浦和南高等学校のPLAN THE NEXT スポーツを科学する生徒の育成</p> <p>【協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実証実験が継続的に実施できるよう、スポーツテック & ビジネスラボとの事業の継続的なサポート及びスポーツ科学（データ分析・栄養・心理等）に取り組む企業及び学術機関の紹介についての連携 	<p>【高校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、スポーツ政策室所管事業として、本格的な実証実験を浦和南高校において実施した。（一社）さいたまスポーツコミッション（SSC）が実施主体となり、サッカー部を中心に動画分析アプリに基づく指導やコンピテンシーの測定を行った。令和2年度は所管を高校教育課に移行し、引き続きSSCを実施主体として、<u>内容中学校も対象に追加、対象部活動も拡大し実証を行った。令和3年度は、事業目的にさいたまSTEAMS教育の推進を追加し、引き続きSSCを実施主体として、浦和南高校、内容中学校、植竹中学校、沼影小学校を対象に実証を行う予定である。</u> 実証の結果、令和元年度は「創造力」及び「表現力」について向上が見られ、令和2年度は動画分析アプリを利用した生徒について、中学・高校ともにコンピテンシーの向上が見られた。 令和4年度も部活動の指導法モデルやSTEAMS教育における授業モデルの構築及び実証のため研究を進めていく予定である。
5	<p>○令和元年度 第1回 学校体育施設の活用について</p> <p>【協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校体育施設の建替えなどの機会を捉え、市民利用可能な体育館としての整備や老朽化し利用期間も限られる屋外プールを通年で利用できる屋内プールとして複合化の検討 	<p>【学校施設課】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで学校体育施設の建替えの時期を迎えたものはないが、引き続き機会を捉え、体育館及びプールを市民利用を前提とした学校体育施設として整備を検討していく。 <u>大和田地区新設小学校整備事業及び指扇小学校複合施設整備事業において、市民利用を前提とした、プールを屋内化、体育館との複合化を検討している。</u>

資料2

令和3年7月29日（木）
令和3年度第1回
さいたま市総合教育会議

「さいたま市民憲章」 「さいたま市民の日」 の普及について

都市戦略本部 都市経営戦略部

市制施行20周年を契機として制定された
「さいたま市民憲章」及び
「さいたま市民の日」について、
学校現場における児童・生徒への学習機会の
提供等、本市の将来を担う世代への普及につ
いて連携をお願いするもの。

趣旨：市民の郷土への思いや、市民としての誇りや自覚がこめられ、市民の心のよりどころとなるもの。

制定：令和3年7月1日

内容：次ページのとおり

経緯：

時期		制定までの経緯
R2	6月～	子どもの提案・アンケートによる意見聴取
	9月～	市民ワークショップ タウンミーティング さいたま市市民憲章審議会（全4回）
R3	1月	審議会より市長へ答申を手交
	2月	2月定例会 さいたま市民憲章（案）報告
	4～5月	パブリック・コメント実施
	6月	6月定例会 パブリック・コメント結果報告
	7月1日	さいたま市民憲章制定 （市長より市議会に対し制定報告・全文披露）

さいたま市民憲章

おおらかな荒川の流れて、見沼たんぼが豊かに広がる武蔵野のみどりに
いだかれたさいたま市は、街道や鉄道のかなめとしてにぎわい、歴史を重
ねてきました。先人たちはここに集い、学び、祈り、美しさと深い味わい
をたたえた独自の文化を育て、教育やスポーツの盛んな風土を培ってきま
した。このまちを誇りとし、ともに時をかさねる私たちさいたま市民は、
だれもが自分らしく生きてゆける社会を築きたいと願い、このまちを未来
につなぐ確かな道しるべとして、ここにさいたま市民憲章を刻みます。

私たちは、

まちの歴史や伝統を受け継ぎ豊かにはぐくんで、明日の世代に伝えます。
小さいのちの大きな未来を信じて、子どもをみんなで支えてゆきます。
みずから学び言葉をみがき、新たな挑戦を志し、自分を耕しつづけます。
深く思いやり、広く理解し手を取りあって、ちがいを力にしてゆきます。
空も水も、草木も花も里山も、ともにある美しい都市を創ってゆきます。

- ・ 市ホームページへの掲載 本年7月～
- ・ 20周年記念式典における披露 本年10月
- ・ 各区役所へのパネル掲示 本年10月～
- ・ 令和3年度成人式出席者への周知 令和4年1月
- ・ パンフレットの作成・配布 本年9月～

期日：5月1日

(市制施行日)

趣旨：郷土である本市の歴史や文化に親しみ、市民としての一体感とまちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力ある本市を将来にわたって創っていくことを期する

内容：(1)当日に市内の一部公共施設の使用料等が無料

(2)当日や前後を通じ、市内各所で市民の日の趣旨に沿った企画

(3)当日に市立学校を休業

(R3・4年度は週休日のため、R5年度より実施)

時期		制定までの経緯
R2	6月～	子どもの提案・アンケートによる意見聴取
	9月～	タウンミーティング
	11月	都市経営戦略会議
	12月	パブリック・コメント実施
R3	3月	さいたま市民の日条例制定 (2月定例会)
	4月	周知・企画実施
	5月1日	「さいたま市民の日」

令和3年5月1日の取組を踏まえ、
市民の日にあふさわしい取組を強化・発展していく

(案)

- ・ 市立学校での学習機会
- ・ 公民館等における体験講座等
- ・ 区役所／図書館における特別展示
- ・ 公立保育園での特別給食



「さいたま市民の日」のリーフレット（教育委員会作成）

1 共通

- ・ 市民憲章・市民の日を学校副読本へ掲載
（例：小学校社会科副読本）

2 さいたま市民憲章について

- ・ 児童生徒向けパンフレットの作成支援
- ・ 市立学校（小・中・高等・中等教育・特別支援学校）全生徒への配布及び憲章理解のための学習機会の確保

3 さいたま市民の日（5月1日）について

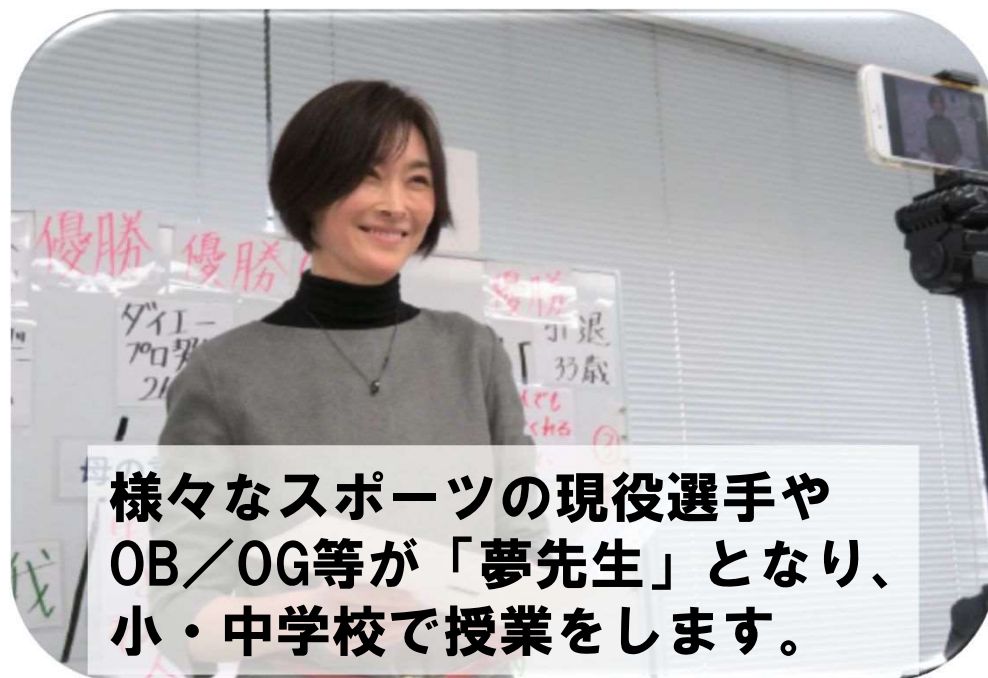
- ・ 市民の日にちなんだ郷土を学ぶ学習機会（例：市民の日週間）
※学校現場、生涯学習施設等
- ・ 前後の期間における学校における特別給食の実施

キャリア教育の推進について ～中学生による企業へのビジネス提案～

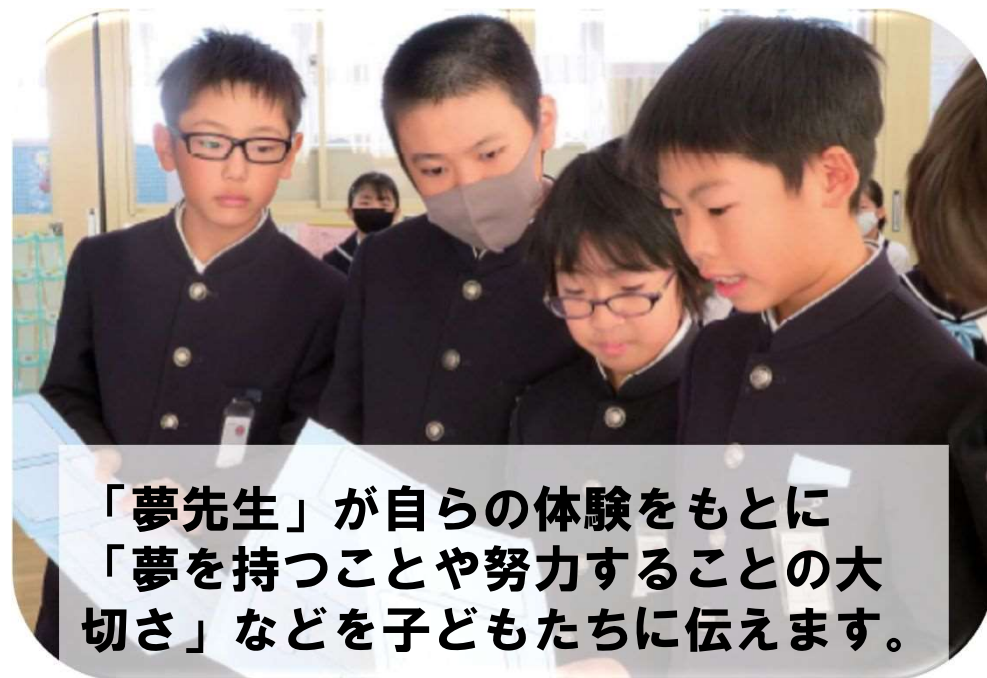
教育委員会事務局
指導1課・高校教育課
生涯学習振興課

本市におけるキャリア教育の取組

JFAこころのプロジェクト 「夢の教室」



様々なスポーツの現役選手やOB/OG等が「夢先生」となり、小・中学校で授業をします。



「夢先生」が自らの体験をもとに「夢を持つことや努力することの大切さ」などを子どもたちに伝えます。

講師



児童・生徒

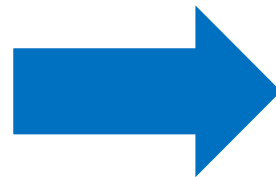
『夢』をテーマにサッカー界だけでなく、他スポーツや他ジャンルの方々の協力を得ながら、子どもたちの心身の健全な発達に貢献していくプロジェクト

本市におけるキャリア教育の取組

夢工房 未来（みら）くる先生ふれ愛推進事業



講師



児童・生徒

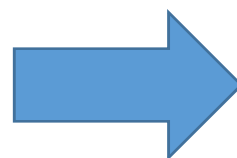
触れ合いを大切にした講話、体験活動等を通して、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を育成

本市におけるキャリア教育の取組

中学生職場体験事業「未来(みら)くるワーク」



中学生



事業所

3日間の職場体験を通して、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を育成

本市におけるキャリア教育の取組

キャリア教育に関する資料の有効活用



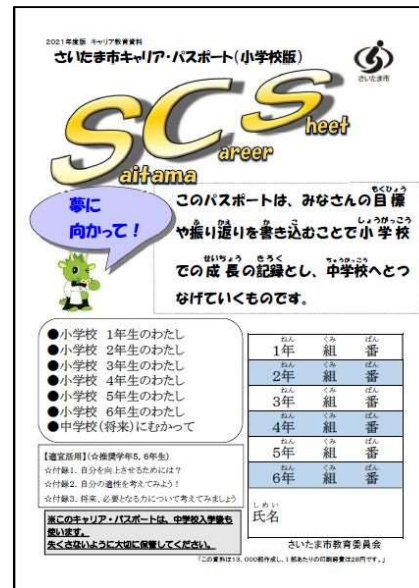
キャリア教育推進の 手引き

児童生徒の発達段階ごとのキャリア教育のポイントや次の学年とのつながり等を示しているもの



キャリア教育 ワークシート集

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」を各教科等で育成するためのワークシート集



さいたま市

「キャリア・パスポート」

児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動を中心として、各教科等と往還し、自らのキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオ



本市におけるキャリア教育の取組

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
キャリア・パスポート	小学校1年生のわたし	小学校2年生のわたし	小学校3年生のわたし	小学校4年生のわたし	小学校5年生のわたし	小学校6年生のわたし 中学校(将来)にむかって	自己理解 将来の夢 キャリアの記録	自己理解 将来の夢 キャリアの記録 未来くるワーク	自己理解 将来の夢 キャリアの記録 卒業に向けて 進路講演会
キャリア教育推進の 子引き	低学年におけるキャリア教育の ポイントを表示		中学年におけるキャリア教育の ポイントを表示		高学年におけるキャリア教育の ポイントを表示		中1における キャリア教育の ポイントを表示	中2における キャリア教育の ポイントを表示	中3における キャリア教育の ポイントを表示
キャリア教育 ワークシート	生活	生活	道徳	体育 社会	学級活動 社会	グローバル・スタンダード 学級活動	学級活動	音楽	国語
JFA こころのプロジェクト 「夢教室」					希望校で実施			希望校で実施	
未来(みら)くる 先生ふれ愛推進事業	全校で実施 小4・5・6年生で実施するが多い						全校で実施 中学3年生で実施するが多い		
未来(みら)くる ワーク								全校で実施	

(成果)

- ・ 小・中学校9年間を見通したキャリア教育の確立
- ・ 「夢教室」、未来くる先生ふれ愛推進事業、未来くるワーク等
体験的な活動の充実

キャリア教育の更なる充実に向けて

デジタル化による雇用の変化

- 人工知能やロボットの導入が進むと、製造ラインの工員、経理・人事等の事務職、付加価値の低い営業・販売などの雇用は減少する可能性が高い。
- 一方、デジタル化は、データ・サイエンティスト、ITセキュリティ担当、きめ細やかなサービスなど、新たな付加価値の高い雇用を生み出す。こうした人材の育成が課題。

(経産省「労働市場の構造変化に伴う人材育成の現状と経済産業省の取り組み」令和3年5月)

→実社会で、新しい価値を創造する力の育成が必要となる。

⇒キャリア教育においても探究的な学習が不可欠となる。



キャリア教育プログラム「エンジン」

キャリア教育における探究的な学習（PBL※）

※Project Based Learning の略。以下の①～④のプロジェクト型学習を行う。

- ①【問いを立てる】 体験活動などを通して、課題を設定し
課題意識をもつ。
- ②【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする。
- ③【整理分析】 収集した情報を、整理したり分析したり
して思考する。
- ④【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、
判断し、表現する。

キャリア教育におけるPBLを行うことで、生徒の意欲に火を灯し、学びを加速させる「エンジン」となる。



（イメージ）
自動車のエンジン

キャリア教育プログラム「さいたまエンジン」

市立中・中等教育学校の生徒が、地元企業とさいたま市のリソース（資源）を活かしたビジネス提案を行います。

探究的な学習（PBL）

地元企業のリソース



サービス

技術

情報

製品

さいたま市のリソース



自然

産業

人

伝統文化

サービス



自然

技術



産業

情報



伝統文化

新たな価値の創造



さいたまエンジンの流れ

STEP 1

リソースについて学ぶ

生徒が学校のリソース（資源）を発見し、新しいビジネスを考えます。



STEP 2

企業のリソースを探す

生徒が地元企業と出会い、地元企業のリソースを探究します。



STEP 3

地域のリソースを探す

生徒がデータや資料、フィールドワークから地域のリソースを探究します。



STEP 4

リソースを基に企画を考える

生徒が企業、地域のリソースをかけたイノベーションを考えます。



STEP 5

企画をプレゼンする

生徒が企画を企業の方に発表し、振り返りを行います。



このSTEP 1～5の過程により、キャリア教育で育てたい資質・能力を身に付けさせることができます。



静岡県での先行事例

今年で実施3年目を迎える。

令和3年度 参加学校 24校・約3500名 協力企業 24社



(令和2年2月13日の映像)

協力企業のメリット

(協力企業の感想から)

- ① 社員が学習プログラムを通して子どもと関わることで、自社の理解を深めたり、自分の仕事の意味や客観的価値を見つめなおしたりすることができるなど、社員研修の場として活用することができた。
- ② 中学生が学習プログラムを通して、地元企業に対する理解や愛着を深めることで、地域における企業の認知度・イメージの向上につながった。
- ③ 中学生が地元企業に対してどのような意識をもっているかを知ることができる。また、商品開発やサービス等について、中学生の発想から新たな視点を獲得することができた。
- ④ 中学生が地域の課題や可能性を発見したり、地域をよくするための提案を考えたりするなど、地域や社会への貢献につながる。

さいたまエンジン実施に向けて

さいたま市の子どもたちに新しい価値を創造する力を育成するための実社会とつながるキャリア教育を推進する。

- 全ての市立中・中等教育学校で第2学年の生徒を対象に、地元企業や地域を探究し、それぞれのリソースを掛け合わせたイノベーションを企業に提案するキャリア教育を展開していきたい。



そのために、地域企業の協力が必要となります。

実施年度	対象生徒数（学校数）	必要な協力企業数
R4	約500人（3校）	3社以上
R5～R8	毎年約2600人（14校/年）	毎年15社以上

※R4年度～R8年度までに、全市立中・中等教育学校で実施
R4年度は、モデル校3校による先行実施（予定）

- ◎実社会とつながるキャリア教育プログラムを推進するために、市内企業との関わりが深い経済局にご協力をお願いします。

「さいたまエンジン」実施に向けてのロードマップ

